

(様式1)

## 平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 084	提案機関名 かながわ西湘農業協同組合
<b>要望問題名</b> 果樹の霜対策について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成22年3月末の例年のない霜の被害を受け次年以降にも無いと言い切れませんので、資材等を用いた対策がありましたお願いしたい。 「霜ガード」の商品がありその効果と有効的な使用方法（マニュアル化）をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術所    ③水産技術センター ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	果樹花き研究部
<b>対応区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 消費者ニーズに合致した果樹有望品種の安定生産技術の確立 本県育成ウメ新品種の安定生産技術の確立 安定生産技術の確立		
<b>対応の内容等</b>	ウメ幼果の凍害発生限界気温は-3～-4℃とあります（中川・角田 1969）。晩霜害対策としては、燃焼法や防霜ファンの利用があげられますが、今回のように、これだけ広い地域に被害が出たことから、産地はこの気温よりさらに下がったと考えられ、その効果にも限界があったかと思われまます。 ご提案いただきました凍霜害予防資材「霜ガード」につきましては、山形県園芸試験場でオウトウ、リンゴでの一定の効果が確認されておりますので、ウメに対する効果について検討いたします。また、現地実証試験を始めたウメの低樹高ジョイント仕立てでは、ほ場全体を覆う被覆法の可能性を将来検討したいと考えております。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			